

●応用生物科学部食品安全健康学科（高一種免（農業））

①教員養成に対する理念

食品安全健康学科は、理科免許状と農業免許状のコースをもうけ、学士プログラムの中に両免許の授業科目を配置していることを教職課程履修規定に定め、この履修モデルを体系的に学修することにより理科・農業の教員を養成する。

■高一種（農業）

本学科は社会への迅速な情報発信あるいは国際的評価基準等の策定を可能とする総合的食品研究の拠点として、食の安全、健康上の問題両面に対する解決力を備えた人材を育成することを使命としている。その使命を果たすため、本学科では、農産物およびその加工品を食することにおける安全・安心およびその機能について、ヒト、動植物、細胞、分子レベルで学修し、さらには、自然科学、人間科学、社会科学、語学も学修し、幅広い視野で農学に関する知識を得、広範囲な領域で活用できるようにしている。

上述の学科の目標から「幅広い教養を有し、高度な専門知識と技術を備え、問題の本質を正確に捉えて合理的に問題解決に導く能力を有する農業教員養成」を理念とする。この理念の実現のための教員養成の構想として、様式第8号ウに各年次における到達目標を明示し、履修カルテにより到達目標の達成度を確認する。

以上の理念・構想から「幅広い教養を有し、高度な専門知識と技術を備え、問題の本質を正確に捉えて合理的に問題解決に導く能力を有し、魅力あふれる農業教員」を食品安全健康学科の目指す「農業」教員像とする。

②教職課程の設置趣旨

■高一種（農業）

現在、日本だけでなく、世界中で食に関する安全、さらには機能に関する問題が多く存在する。その問題を的確に捉え、解決する人材を育成するために本学科は設置された。本学科では、農産物およびその加工品を食することにおける安全・安心およびその機能について、ヒト、動植物、細胞、分子レベルで学修し、さらには、自然科学、人間科学、社会科学、語学も学修し、幅広い視野で農学に関する知識を得、広範囲な領域で活用できるようにしている。

今日、農業の技術革新は目覚しく、そのため、農業高校の教育内容は多様化している。また、農業高校の生徒の進路先は、技術者、就農だけでなく、関連企業への就職も多い。よって、農業の技術、経済的なことを理解させるだけでなく、国際的な感覚、ビジネススキルと言った幅広い知識を生徒に身に付けさせる教員を養成することが必要であると考ええる。

そのために、農学全般を理解するための「農学概論」のほか、「農と科学の歴史」「現代の環境問題」、「経済入門」、「日本国憲法」、「英語」などを配置し、各講義で得られる知識を広範囲な領域で活用可能としている。また、「生命倫理」、「研究倫理」を配置し、教員として必須である倫理観を身に付けさせる。また、作物の生産を理解する上で必要な「植物生理学」、発酵を理解するために「微生物学」、「発酵食品学」、食品を理解するために「食品化学」、「食材生化学」、「食品機能学」、「食品物性学」などを配置している。さらに、考える力、コミュニケーション力をつける「卒業論文」を配置することで、現代、将来の農業における問題・課題を把握し、得られた知識と技術を駆使できる能力を身に付けさせる。この修学により、考える力、応用力、コミュニケーション力を持った食品問題をはじめ農業問題の解決策などを様々な視点から提案できる教員を養成できると考える。

以上のことから、本学科の学修が、高等学校「農業」の教育目標と合致するため、高校「農業」の教職課程を設置する意義・必要性は十分に認められると考える。